

令和5年度 第2四半期 (7月~9月)

景気動向調査結果報告

豊橋商工会議所 ビジネスサポートセンター

調査概要

- 調査対象
 - (1)対象地区：豊橋市内
 - (2)回答企業数：163社
- 調査期間
令和5年7月~9月
- 調査方法
往復はがき、FAX、Google Form
- 回答企業の内訳
製造業 72・建設業 28・卸売業 18
小売業 17・運輸業 14・サービス業 14

全産業業況 DI 値は前回調査から 2.5 ポイント悪化、令和4年度第2四半期からは 10.4 ポイント改善

■全業種概要

全産業の総合判断 DI 値は▲4.2 (前期比▲2.5、前年同期比+10.4)、来期見通し (10月~12月) については▲5.5 (当期比▲1.3) となった。

製造業・卸売業・小売業で DI 値が前期比プラスとなり、新型コロナが5類に移行され回復傾向にあるとの声が挙がった。一方で、原材料価格や人件費の上昇、人手不足が深刻であるとの声も引き続き多く聞かれた。また、物価高騰による消費意欲の低下等、需要の停滞も懸念される。

設備投資については、「実施した」との回答が 38.2 (前期比+2.5、前年同期比+9.1)、来期に設備投資を「計画している」との回答は 39.5 (当期比+1.3) となった。

■製造業

業況 DI 値は+4.2 (前期比+5.6、前年同期比+13.0)、来期の見通しについては▲1.4 (当期比▲5.6) となった。

自動車関連や IT 業界は好調であるとの声、食品製造業では仕入上昇分を売価に反映できているとの声があったが、全般的には原材料およびエネルギー価格の高騰が依然収益を圧迫しているとの声が目立ったほか、海外市況が業況に影響を及ぼしているとの声、人材確保が難しいとの声が挙がった。

経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」、「人件費の増加」、「従業員の確保難」が主に挙げられる。

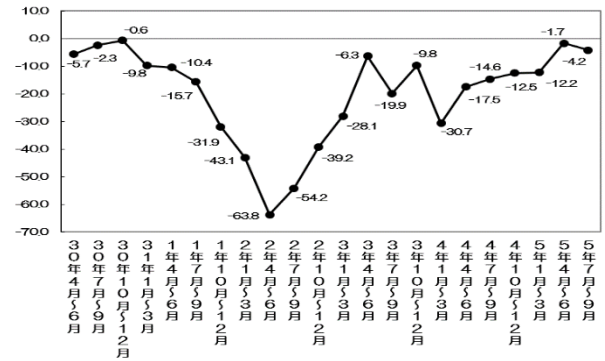
■建設業

業況 DI 値は▲16.7 (前期比▲10.4、前年同期比+18.8)、来期の見通しについては▲3.3 (当期比+13.4) となった。

原材料費・燃料費の高騰により採算が悪化している、物価高等の影響で民間需要が低下傾向にあるとの声が多く聞かれた。また、新卒・中途ともに採用が困難である、定年退職により従業員数が減少した、熟練技術者の確保が一層厳しくなっている等の声が挙がり、深刻な人手不足が浮き彫りとなった。

経営上の問題点としては、「材料単価の上昇」、「従業員の確保難」、「熟練技術者の確保難」が主に挙げられる。

全業種



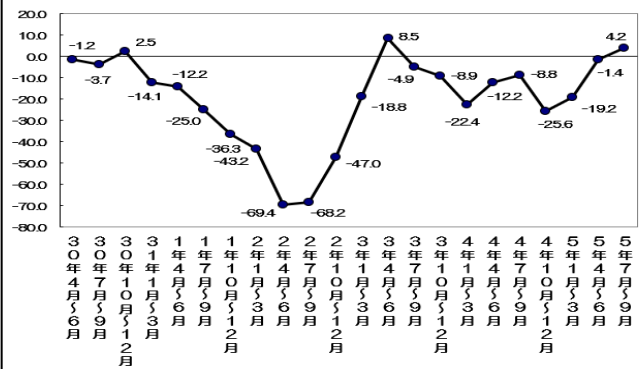
《A》前年同期 (令和4年7月~9月) と比較した景況感

良い	同様	悪い	DI 値	↑
18.1%	59.6%	22.3%	▲4.2%	

《B》来期 (令和5年10月~12月) の景況見通し

良い	同様	悪い	DI 値	↓
18.8%	57.0%	24.2%	▲5.5%	

製造業



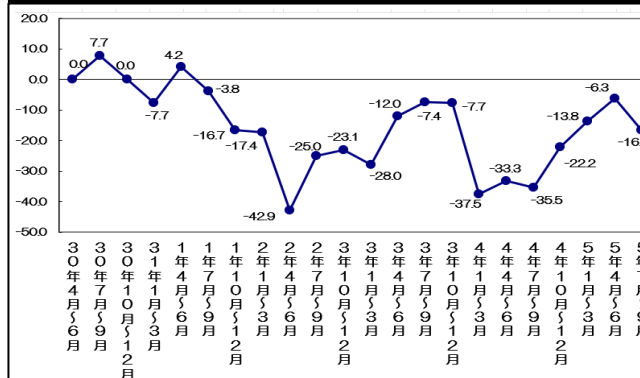
【前年同期比】 令和4年7~9月

自社の業況	4.2 ↑
-------	-------

【来期見通し】 令和5年10~12月

自社の業況	▲1.4 ↓
-------	--------

建設業



【前年同期比】 令和4年7~9月

自社の業況	▲16.7 ↑
-------	---------

【来期見通し】 令和5年10~12月

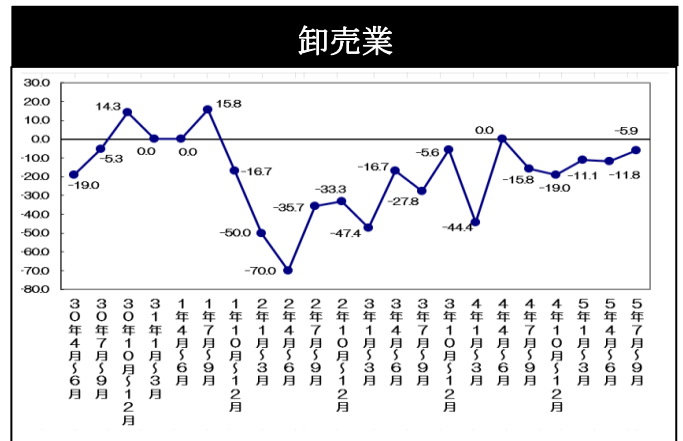
自社の業況	▲3.3 ↑
-------	--------

■卸売業

業況 DI 値は▲5.9（前期比+5.9、前年同期比+9.9）、来期の見通しについては▲5.9（当期比±0.0）となった。

取引先に回復の兆しが見える、新規取引先が増加した、価格転嫁が達成できた等、明るい話題も聞かれるようになった。しかし、依然として続く原材料価格・燃料費の高騰による採算の悪化、値上げによる需要の後退、人手不足・採用難等の懸念材料も多い。

経営上の問題点としては、「仕入価格の上昇」、「人件費の増加」、「需要の停滞」が主に挙げられる。



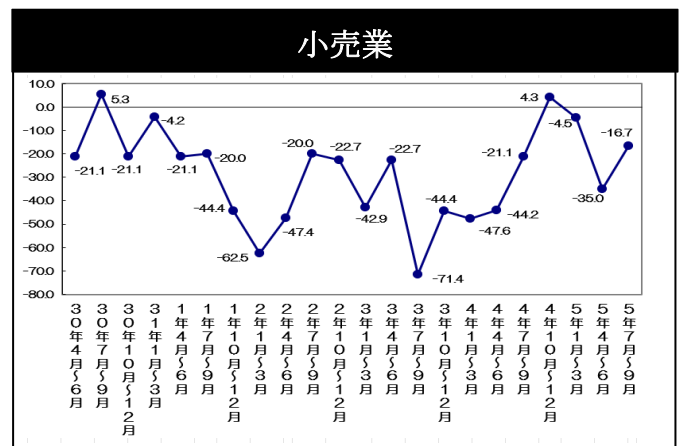
【前年同期比】	令和4年7~9月	▲5.9 ↑	【来期見通し】	令和5年10~12月	▲5.9 →
自社の業況			自社の業況		

■小売業

業況 DI 値は▲16.7（前期比+18.3、前年同期比+4.4）、来期の見通しについては▲33.3（当期比▲16.6）となった。

一部で夏休み中に客数が増加したとの声があったものの、全般的には値上げの影響で消費者に買い控えの傾向がみられる、客数が減少しているとの声が多かった。依然として光熱費等経費の増加、仕入価格の上昇を問題として挙げる声も多い。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「消費者・製品ニーズの変化への対応」、「需要の停滞」が主に挙げられる。



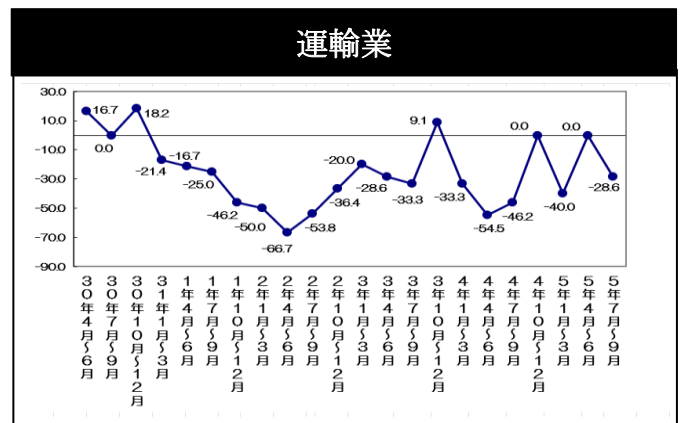
【前年同期比】	令和4年7~9月	▲16.7 ↑	【来期見通し】	令和5年10~12月	▲33.3 ↓
自社の業況			自社の業況		

■運輸業

業況 DI 値は▲28.6（前期比▲28.6、前年同期比+17.6）、来期の見通しについては▲21.4（当期比+7.2）となった。

一部で得意先に運賃を値上げしてもらえたとの声があったものの、全体的に人件費の上昇や燃料費の高騰により採算が悪化しているとの声や、値上げ交渉が難航しているとの声が多かった。輸送量の減少を懸念する声も挙がった。

経営上の問題点としては「人件費以外の経費の増加」、「従業員の確保難」、「運送単価の低下・上昇難」が主に挙げられる。



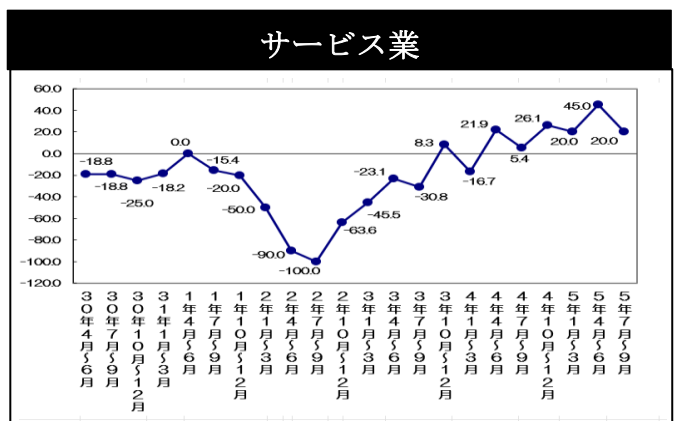
【前年同期比】	令和4年7~9月	▲28.6 ↑	【来期見通し】	令和5年10~12月	▲21.4 ↑
自社の業況			自社の業況		

■サービス業

業況 DI 値は+20.0（前期比▲25.0、前年同期比+14.6）、来期の見通しについては+20.0（当期比±0.0）となった。

新型コロナの5類移行で、飲食店や観光業で客足が戻ってきたとの声も挙がった。一方で、警備関連では人手不足が深刻であるとの声、広告業ではコロナからの回復が鈍いとの声、飲食業では経費の高騰により利益率が悪くなっているとの声が聞かれた。

経営上の問題点としては、「人件費の増加」、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が主に挙げられる。



【前年同期比】	令和4年7~9月	20.0 ↑	【来期見通し】	令和5年10~12月	20.0 →
自社の業況			自社の業況		